

私たち農林中央金庫の仕事は、
ある日突然、世界を大きく変えるようなものではない。

なぜなら私たちが向き合う農林水産業とは、
自然を相手にし、一朝一夕に変化や成果を生み出すものではないから。
モノをつくるのではなく、「いのち」を生み、育て、繋いでいくものだから。

だからこそ私たちは、世界の金融市場で安定した利益をあげるという挑戦を続け、
規模の大小を問わず、地域と農林水産業を守る人々に尽くす金融機関として生きてきた。
そうして、90余年の歴史を重ねてきた。

しかしこれからは、それだけでは十分とはいえない。
農林水産業が、時代の変化をとらえ発展し続ける産業になるためには、
私たちは、これまで以上の役割を果たさなければならない。

金融の知見を活かしながら、いままでの機能や範囲を超えた新たな貢献へ。
現場の課題の解決に、身をもって真摯に挑んでいく。
生産者はもちろん加工や流通、そして消費者と向き合い、その声に応じていく。

農林水産業から生まれる「いのち」は、
その先に連なるたくさんの「いのち」の営みに繋がっている。

いまこそ、私たち一人ひとりが、持てるすべてを発揮する時。
未来へと受け継がれるこの「いのち」の連鎖を、
より豊かで確かなものにするために。

持てるすべてを「いのち」に向けて。

Dedicated to sustaining all life.

農林中央金庫

目次 Table of contents

p2 | ごあいさつ

p3 | 理事長メッセージ

p8 | 系統信用事業の現状と
農林中央金庫の役割

- 9 系統組織と系統信用事業
- 12 JAバンクシステムの運営
- 14 JFマリンバンクの運営
- 16 JForestグループの取組み
- 17 系統セーフティネット

p19 | 経営管理システム

- 20 経営体制(コーポレートガバナンス)について
- 28 経営管理の枠組み(リスクアベタイトフレームワーク)
- 30 内部統制強化への取組み
- 34 内部監査体制
- 35 社会に信頼される金融機関であり続けるために
- 39 地域活性化・金融円滑化に向けた取組み
- 42 必要人財群の形成と職員エンゲージメントの醸成

p44 | リスクマネジメント

- 45 リスクマネジメント

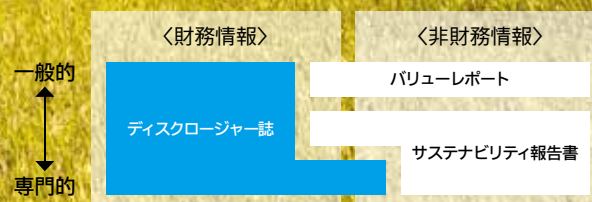
p53 | 主要な業務のご案内

- 54 主要な業務のご案内
- 58 農林中央金庫のグループ会社

p61 | 資料編

- 62 財務データ
- 111 バーゼルⅢデータ
- 186 報酬等に関する開示事項
- 190 内部統制
- 195 コーポレートデータ

各刊行物の位置付け



本誌では、農業協同組合をJA(農協)またはJA、漁業協同組合をJF(漁協)またはJF、森林組合をJForest(森組)またはJForestとそれぞれ記載しています。

本誌には、当金庫の2021年3月末時点における財務状況および業績に関する実績値のほか、当金庫に関連する見通し、計画、目標等の将来に関する記述が含まれています。これらの将来に関する記述は、経営を取り巻く環境の変化等により異なる結果となりますことをご承知おきください。



みなさまには、平素より当金庫の業務に関し、多大なご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。

また、新型コロナウイルス感染症に罹患されたみなさま、感染拡大により影響を受けているみなさまに心よりお見舞い申し上げます。

この度、当金庫の2020年度の業務実績、およびJAバンク、JFマリンバンク、JForestグループの概況等をご説明したディスクロージャー誌を発行いたしましたので、ご一読ください。

協同組織中央機関として果たす基本的役割

当金庫は、農林水産業者の協同組織を基盤とする全国金融機関として、金融の円滑化を通じて農林水産業の発展に寄与し、もって国民経済の発展に資することを目的としています。この目的を果たすため、JA(農協)、JF(漁協)、JForest(森組)等からの出資およびJAバンク、JFマリンバンクの安定的な資金調達基盤を背景に、会員、農林水産業者、農林水産業に関連する企業等への貸出を行うとともに、国内外で多様な投融資を行い、資金の効率運用を図り、会員への安定的な収益還元に努めています。

さらに、JA(農協)、JF(漁協)の信用事業(系統信用事業)をサポートするための施策の企画・展開や、人材育成、業務インフラの提供等、さまざまなサービスを提供しています。また、関係法令等に基づき、系統信用事業における指導業務も担っており、JAバンク、JFマリンバンクのセーフティネット構築とその運営に努めています。引き続き、系統信用事業の信頼性向上に

取り組むとともに、系統信用事業の強化・拡大を実現する重要な役割を担ってまいります。

「中期経営計画(2019～23年度)」の運営

当金庫・系統を取り巻く環境は、グローバルな利鞘縮小、デジタル化の急速な進展等、厳しさを増している一方、農林水産業の成長産業化等に対する社会の関心・期待はかつてないほど大きく高まっております。こうした当金庫・系統を取り巻く経営環境や、当金庫の基本的役割等を踏まえ、2019年度から5年間の経営・業務運営方針となる「中期経営計画(2019～23年度)」を策定し、それに基づく業務運営に取り組んでおります。

存在意義・中長期目標の策定

気候変動をはじめとした環境・社会課題の深刻化、コロナ禍による働き方・ライフスタイル・価値観の変容など、当金庫そして基盤となる農林水産業を取り巻く環境は急速に変化を続けています。こうしたなか、当金庫のあるべき姿・世の中に提供できる価値や役割として、『持てるすべてを「いのち」に向けて。～ステークホルダーのみなさまとともに、農林水産業をはぐくみ、豊かな食とくらしの未来をつくり、持続可能な地球環境に貢献していきます～』をパーパス(存在意義)に決めました。このパーパス実現のため、2030年に向け新たに農林水産業者所得の増加・温室効果ガス(GHG)削減に向けた中長期目標も掲げております。当金庫では、パーパスを踏まえ、中長期目標の実現を通じて、ステークホルダーのみなさまとともに成長できるように、日々の業務に取り組んでまいります。

最後になりますが、JAバンク、JFマリンバンク、JForestグループおよび当金庫は、今後とも、協同組合ならではの役割・機能を発揮しつつ、みなさまから安心・信頼される金融機関・組織を目指してまいります。みなさまにおかれましてはこれまで以上にお引き立て賜りますよう、お願い申し上げます。

2021年7月

農林中央金庫
経営管理委員会会長

農林中央金庫
代表理事専務

中家 徹 奥 和登